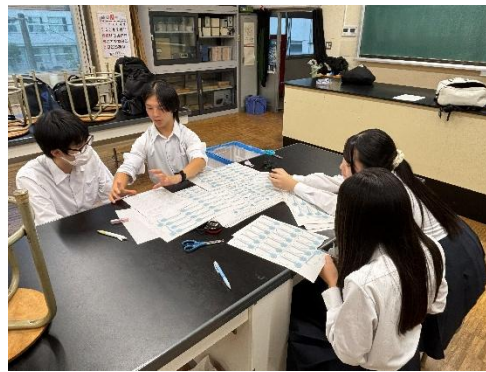




デジタルサイネージでSSHについて紹介していきます！

1棟3階にデジタルサイネージを設置しました。SSHに関する案内やSSHニュース等を掲載していきますので、前を通った際にはぜひ見てみてください！

きのくに科学オリンピックやおもしろ科学まつりに向けて活動中！

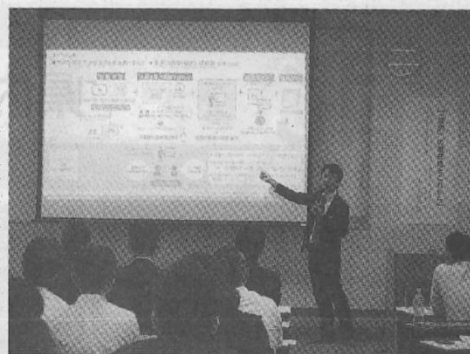


(平成5年7月19日第3種郵便物承認)

(日刊) わ か や ま 新

探究のタネ見つけよう

SSHの向陽高で教員の研究会



教員らに講演する山下さん

TS)のフェロー／フェローコーディネーターの山下真司さんが『探究』の現在地とこれから」を演題に、今後の教育の在り方について具体例を挙げ、講演。提示されたテーマについて教員らが話し合った。

和歌山

県立向陽高校・中学校（和歌山市太田）で、「探究のタネを見つける会 in WAKAYAMA」が開かれ、県内・県外の高校・中学校の教職員ら65人が参加した。

同校は2023年度に文部科学省から5年間スーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究開発学校第IV期に指定された。「紀の国和歌山から科学の大輪の

花を咲かせるハイレベル科学技術系人材の育成」を研究開発課題に掲げ、教育実践を展開している。今回、探究・探究的な学びについての理解を深め、より良い探究活動の在り方について相互啓発を図ろうと、研究会を開いた。

研究会では、(株)ベネッセコーポレーションベネッセ教育総合研究所の主席研究員で独立行政法人教職員支援機構(NII)の山崎晴らというは素晴らしい取り組みだと思います」と話した。

研究会に参加した開智高校(同市直川)の佐々木海教諭は「他校の実践事例を知れたことは大きかった。探究活動について、われわれ教員も理解が不十分なところも、そこに意義がある」と話していた。探究活動に「探究的な学びについて」講演した山下さんは「非常に熱心な先生が多く参加されていた。自分たちで対話をしながら新しい取り組みを考えることが、これからを生きる子どもたちの学びを考える先生方にとっての原動力になるのではないか。公立・私立、県内県外の枠組みを超えて同じテーマで学び合うというのは素晴らしい取り組みだと思います」と話した。

わかやま新報(2025年10月17日)において「探究のタネを見つける会 in WAKAYAMA」の記事が掲載されました！

県全体の探究を推進するために研究会などを開催していきたい」と話していた。